

0460

極秘
經戰訓第二十號

領土內空襲時ノ地方對策ノ教訓

本資料ハ武膽兵團及球集
團ノ經理月報ニ依ル

昭和二十年一月十日
野戰經理長官部

目	次
第一、沖繩方面	
第二、小笠原方面	

領土内空襲時ノ地方對策ノ教訓

第一 沖繩方面

一 空襲直後地方民ニ協力シ衣糧諸品ニ就テ適宜ノ處置ヲ講スルヲ要ス

空襲直後球部隊經理部ノ實施セル事項左ノ如シ

- 1 市内焼跡ニ殘存セル被害品味噌三五〇〇貫醬油諸味一〇〇〇石ヲ兵力ニ依リ蒐集シ買上ケルコトニ決定之ヲ搬入セリ
- 2 專賣局保管食鹽中被害品約一〇〇〇〇袋アリ直ニ兵力ヲ以テ兩ニ依ル損害防止策ヲ講シ且一部附近ノ消火ニ努メタリ 尙依頼ニ依リ四〇〇〇袋ヲ軍ニ於テ引取ル事ニ決定之ヲ搬入セル外味噌醬油會社所要食鹽並民間用品ノ運搬ニ協力セリ 縣ニ對シテハ專賣局ヨリ約四〇〇〇〇袋ヲ交付セシメタリ

3 津嘉山附近ニ避難セル地方民ニ對シ延約一〇〇〇食ヲ給養セリ

4 市内酒造工場九戸ノ内八戸焼失セルヲ以テ十月十九日軍、稅務署、酒造組合主務部會合シ將來ノ對策ヲ講シタリ 不取敢將來空襲ノ危險大ナル

5 砂糖工場中將來空襲ノ危險大ナル個所二箇所ヨリ約一萬袋ヲ分散セリ

6 軍管理工場ニ從事シアル者並公職ニアル在郷將校等ニ毛布、地下足袋、軍衣袴等貸與セリ

7 爾今十月十一月先島地區ニテ收貨スル經節ハ會社側ノ依頼ニ依リ直接現地軍ニテ受領シ生産者ニ支拂フコト、セリ

8 縣内ニ於テ最モ米ノ所有量不足ナル宮古(支廳)ニ對シ不取敢現地軍ヨリ一〇〇〇〇〇袋貸與スルコト、シ民心ノ安定ヲ圖ルト共ニ右現品ハ本島ニ於テ受領スルコト、セリ(球集團)

二 空爆ニ依リ住民避難シ混亂ヲ極メアル際ハ速ニ物資蒐集班ヲ派遣シ集合物資ノ獲得ニ著意スルヲ要ス

空爆ニ因リ那覇市ノ大火災及住民ノ避難逃亡ニ依リ首里市ノ混亂ト首里市類焼ヲ憂慮シ首里市内集合物資タル味噌醬油等ヲ逸早ク確保スルニ著意シ之ヲ蒐集給養ニ充當シ良好ナル成果ヲ收メタリ(武兵團)

三 師團經理部ニハ現地自活力確保ノ爲從業者ノ離散ニ備ヘ經理勤務班以外
 ニ現地自活班(主計將校二、下士官五、兵一五〇)ヲ編成シアルヲ要ス
 武兵團經理部ハ豫テヨリ現地自活ノ強化擴充ニ努メ主トシテ現地人ノ勞力
 ヲ活用シ蔬菜栽培、食品工場、皮革工場等各種工場ノ培養及自營スル外漁
 撈等ヲ實施シアルタルモ今次空爆ニ依リ從業者四散シ直ニ作業ニ影響ヲ及
 ホサントセリ 然ルニ當師團ハ上陸以來其ノ基幹ノ作業員ニ經理勤務班ノ
 一部ヲ充當シアリタルヲ以テ空爆ニ依ル從業員ノ逃亡等アリタルニ拘ラス
 勤務班基幹兵ノ活動ニ依リ各部隊ニ自活品ノ補給ヲ繼續シ圓滑ナル給養ヲ
 實施シ得タリ 故ニ師團經理部ハ常ニ經理勤務班以外ニ現地自活班ヲ設ケ
 現地自活兵ヲ養成シアルヲ要ス(武兵團)

第二 小笠原島方面
 膽兵團ノ占領セル島嶼ノ地方在來ノ建物ハ大部分燒失又ハ破壞セラレ軍ニ於
 テ利用シアルモノハ一部分ニシテ谷間、凹地、死角地帯ニ殘存セルモノノミ
 ニ過キズ此等中所有主判明セルモノハ何レモ借上ケ不明ナルモノハ無斷使用
 ノ餘義ナキ實情ニ在リ(膽兵團)

陸密第二五九號

昭和廿年貳月六日(甲)

少年飛行兵、特別幹部候補生ノ在營期間短縮ニ關スル件陸軍一般へ達
 昭和二十年一月二十三日

陸軍大臣 杉 山 元

時局ノ爲所澤、岐阜陸軍航空整備學校及陸軍航空通信學校ニ於ケル少年飛行兵及特別幹部候補生ノ在營期間ヲ別紙
 ノ通短縮ス

長

庶務係

少年飛行兵、特別幹部候補生、在營期間短縮區分表

學 校 名	區 分	種 類	短 縮 期 間	
			概 ネ	月
所澤陸軍航空整備學校	少年飛行兵	(第十六期甲種技術兵)	昭和十九年陸密第二〇一八號ニ據ル外	
岐阜陸軍航空整備學校	特別幹部候補生	(第一期)	概 ネ	二月
陸軍航空通信學校	特別幹部候補生	(第十五期甲種通信兵)	昭和十九年陸密第二〇一八號ニ據ル外	

陸 軍